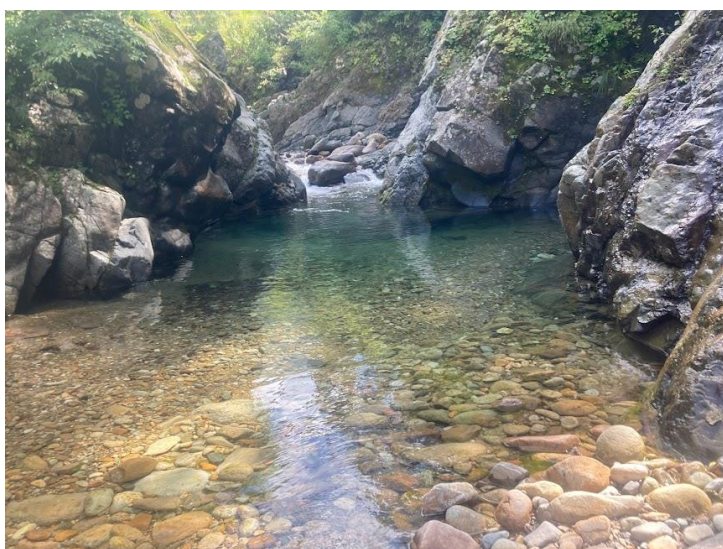
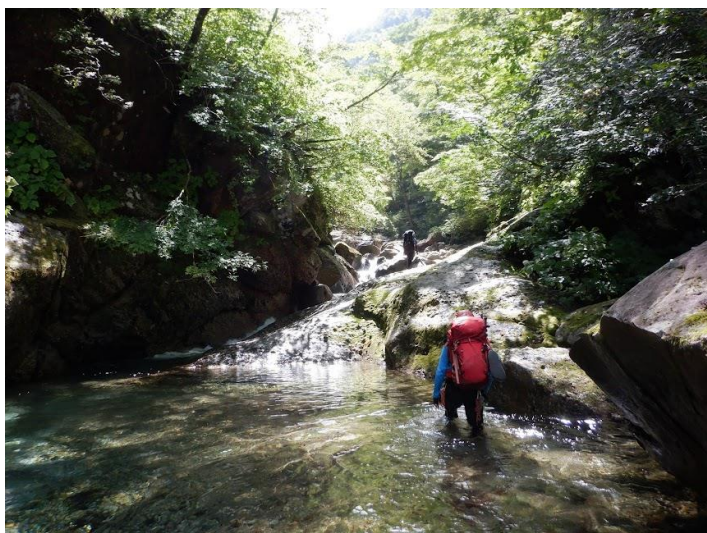


白山・岩屋俣谷川右俣（井川左俣）～別山

T野

2023年9月16日～18日

メンバー： T野・I崎・H多



当初の計画は、会越の室谷川。駒形沢の桃尻スラブを登り、西の沢を下降、室谷川を泳ぎ下るといふ魅力あふれる周遊ルートであった。ところが、ガラスの膝が完治しないA原さんと家庭の事情でやむなくキャンセルのN山さんがメンバーから抜け、僕がリーダーとなった今、泳ぎパートが特に不安であった。しかも、事前の天気予報も、あまり芳しいものではなく、気圧が不安定なので天気はロシアルーレット。もし、不幸にして発達した雷雲の下になれば、ゴルジュの中で土砂降り・・・っていうことも充分ありうる。それだけでなく泳ぎに自信はないのにこの予報はかなり怖い。室谷川へのモチベーションがどんどん低下していく。レベルを落として日帰りもできる霧来沢のもうがけ沢や、安達太良の日帰りの沢など転進案も考えたが今一つパツとしない。「どこか良いところはないか？」とウエザーニュースや天クラをネットサーフィンしていると、何と白山方面の予報が良い！！ウエザーも天クラも安定した予報を出しているではないか！！

■写真上 最初は穏やかなゴーロが続く。

■写真中 泳いで突破した淵。右岸を簡単に巻けそう。

■写真下 こんな淵です。楽しく突破。

実は、白山には以前から気になっている沢がある。金沢で山スキーの大御所、Y先生が、ほとんど毎年のように新しい仲間を誘って遡行している沢である。まあ、毎年のように行く、ということは、絶対つまらない沢ではないということだろう。記録の写真を見ても美しい滝がたくさん写っていて、沢



の経験が少ない体力自慢の若手のメンバーも連れて行っている。ここなら、我々でも技術的に想定内、彼らと比べて体力不足は否めないが、荷物は重たくなるが沢中泊にすることでその問題は解決でき、楽しく遊行できそうだ。泊まっている記録は少ないが、今までの経験上、地形図を見る限り、3人くらいならきっとテンバは何とかなるだろう！！

■写真上 快適なテンバ！！

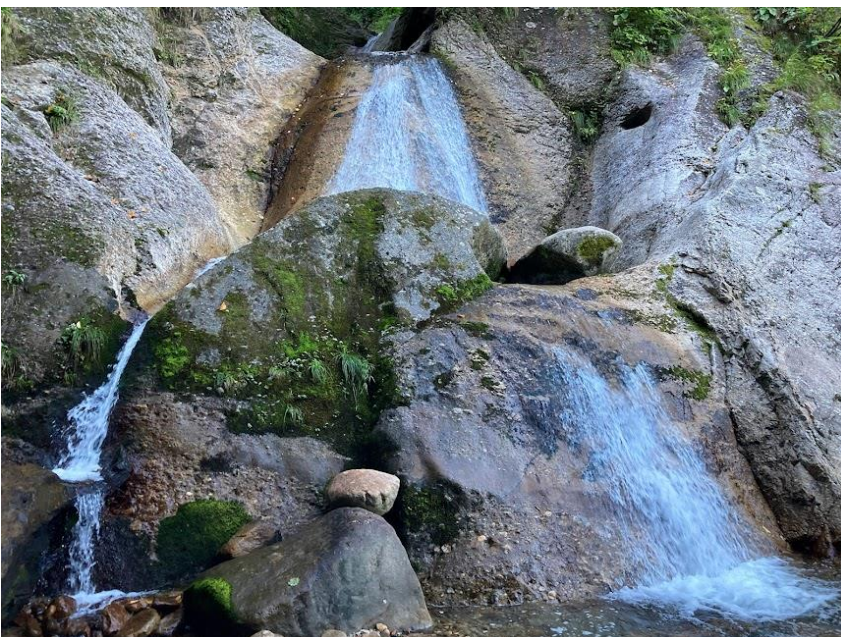
■写真中 焚き火も一発点火。

■写真下左 最初の核心4段の滝！！

■写真下右 ここは左岸草付き岩壁にロープを伸ばす。



さて、紹介が遅れたが、肝心の気になっていた沢とは、手取川水系の岩屋俣谷川である。入渓するとすぐに二俣があり、左俣は別山谷と名前を変え、こちらはかなり険悪な溪のようである。一方、右俣は井川と名前を変え、多くの滝を懸け福井県の最高峰の三ノ峰から別山の稜線に突き上げている。今回のターゲットはこの井川！！上部に二俣があり、別山に近い左俣の





方が、より滝が多く楽しめるようだ。ならば、今回は左俣に入ろう！！そして、登り詰めた稜線は、僕にとってまだ訪れたことのない未知の場所！！最後は別山に登頂できるのも「山旅」という意味で完結されていた実に良いではないか！！真面目に資料を集めるうちにどんどんワクワクしてきた。ガイド本には載っていないので、まだまだ未知の部分が多いのも遠征チックで好感度アップ。さあ、楽しくなってきたぞ！！ということで報告です。

9/15の夜、久しぶりに気合が必要な長距離ドライブが始まる。H多さんを練馬駅で21時にピックアップし、少し遠回りだが関越道の昭和ICでI崎さんをピックアップ。長岡JCから北陸道へ、新潟県を南下、もうすぐ富山県という親不知で高速を一度降りて、「道の駅親不知ピアパーク」で仮眠をとる。ここは高速のガード下なので雨が降ってもテントなしで仮眠ができる。I崎さんが持参してくれた冷えたビールで軽く入山祝い後仮眠。



3時間後、眠い目をこすって再び出発、富山県を南下し加賀百万石の街、金沢へ……。イヤイヤ遠い。金沢西ICで高速を降りてもまだ60kmくらい一般道を走らなければならない。途中、コンビニで買い出し、朝食を採って、9時前ようやく市ノ瀬のビジターセンターにたどり着いた。実に600kmのドライブであった。

- 写真上 こんな滝は無数にある。
- 写真中 やがて巨岩帯に滝が落ちるようになる。
- 写真下 溪はだんだんまとまりを見せスラブ状になってくる！！



9/16

市ノ瀬の駐車場は大混雑、かなり奥の方のスペースに車を止め、準備をして9:30出発。ただ、アプローチは意外にわかりにくい。まず、駐車場を出てすぐに右に上がる車道に行く。チブリ尾根方面の道である。何も考えないで歩くと、白山のメインストリートの別当方面に道を辿りかねない。右に上がる道を行くとすぐに岩屋俣谷川を橋で渡る。小ぶり



な平流でこの上流にスケールの大きな溪があるとは思えない流れである。さらに少し歩くと、右に山道が分かれる。チブリ尾根登山道の旧道である。

(ここまで駐車場から約20分。)この道に入るが、ここから分かれる作業道跡の入口が非常にわかりにくい。地図や、先人のトラックで注意深く探すとそれらしいところがあり、少し入れればしっかり踏みあとも現れ、もうこうなればしめたものである。(作業道跡の入口は山道に入って3~4分位。)入ってしまえばピンクテープもこまめにあり、これに従えば、下流部にあるいくつもの大きな堰堤をすべてパスできる。この踏みあとを辿ると駐車場から約1時間のアプローチで岩屋俣谷川に降り立つことができた。

入渓後、平流のゴーロがしばらく続くが、ところどころにある淵の水の色が実に美しく、初めて足を踏み入れたからか全く退屈ではない。45分ほど歩くと背の立たない淵



があり、暑かったのでここは泳いで楽しく突破する。ここは巻こうと思えば右岸から簡単に巻けそうだ。さらに25分ほど歩くと別山谷との二俣である。

■写真上 ヤバそうな滝が出てきた。10mチョックストーン滝。

■写真中 少し登ると左にバンドが繋がっていた。ホッ！！

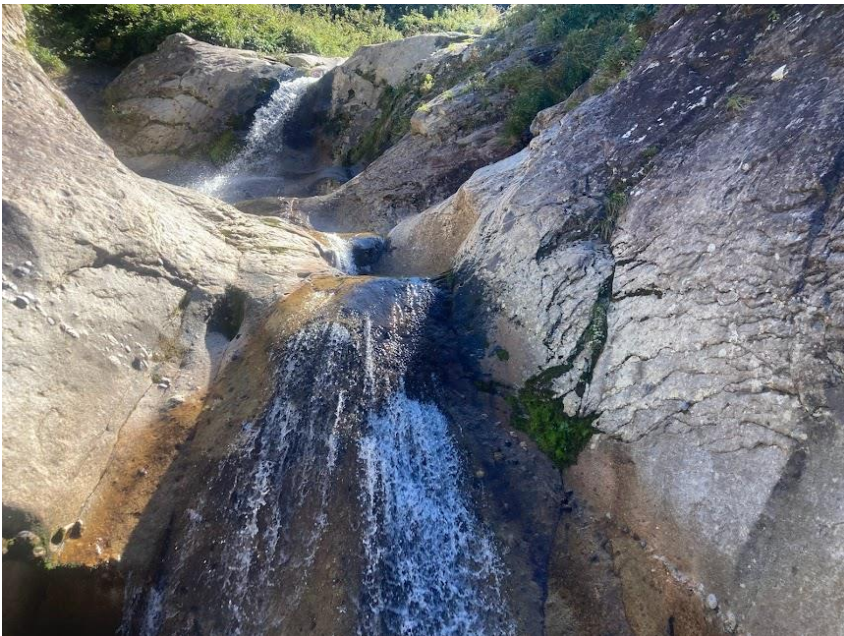
■写真下 バンドを巻きあがり30mロープいっぱい懸垂で沢床に戻った！！



さて、ここが思案のしどころである。まだ、時間は12時前である。ただ、この後、渓は険悪なゴルジュやスラブが連続して、奥の二俣まではテンバの確約がない。足



の速いY先生のパーティーで奥の二俣まで日帰り装備でここから約4時間、泊り装備の我々なら順調に行っても5時間以上は確実にかかるだろう。天気はどうか・・・？少し気になる雲が空を覆っていて、夕立の可能性も示唆している。さらに、我々の体調は・・・？夜通しのドライブですでに結構疲弊している。そして、予報は明日の方が良い！！決まりだな・・・。



■写真上 やがて岩盤の発達した連瀑帯が始まる！！
■写真中 ゲップが出るほど滝が続くが楽しい！！
■写真下 水の色が綺麗！！



ということで今日は休養日！！この付近に良い場所を見つけてゆっくり英気を養い、明日に賭けることにする。テンバは右俣（井川）に入って少し歩いた1120m付近の右岸に好物件を見つけることができた。大增水時はまずいが、水はけのよい河原で、薪も豊富な一等地である。早速、土木工事をしてタープを張り、薪を集めれば、あとはいつもの楽しい世界である。とりえず大変なことは全て明日に廻したので時間はたっぷりある。まずはビールで乾杯！！「明日は沢泊じゃないからビール冷やせないよ！！」「ジャー今日全部飲んじゃえ！！」「そうそう、軽量化、軽量化」という感じで重たいものから腹に入れていく。焚き火もいい感じに燃え気持ちの良



い夜だった。

9/17

3時半起床、満天の
星空に感激！！A原さ
さん伝授の特別軽量化食
のトマトリゾットを食
べて5:50 出発。少し
歩くと溪は険悪な雰囲気
になり、早くもこの
溪の核心の滝が現れる。
4段の滝らしいが下か
らは2段目までしか見
ることができない。こ
こは直登が難しいので
左岸の草付きの壁に登
る。ここは僕がチェー
ンアイゼンとアイスバ
イルで完全武装してリ
ードする。5m位登ると
信用できそうなブッシ
ュがあるのが心強い。
チェーンアイゼンの信
頼度は絶大で、それほ
ど緊張することなく上
に抜けて後続をビレー
する。すると、チェー
ンアイゼンを持たない
お二人は思いのほか苦
労して登ってきた。イ
ヤイヤ、チェーンアイ
ゼン持ってきてよかつ
た！！



■写真上 難しそうな
滝は空身でリード！！

■写真中 スラブの連
瀑が続く。

■写真下 ゴルジュも
ある！！

この滝を越えると、
溪は巨岩とスラブの溪
になる。南アの尾白川
本谷に雰囲気少し似
ているかな？ 巨岩の
中に滝を懸け、パズル
を解くように登って行



くのが楽しい。やがて溪が東を向くと今まで陽が差さなかった溪に陽光が正面から当り、眩しさに思わず目を細める。そして、いつしか巨岩は影を潜め、岩盤の発達した溪に変化していく。登れる滝をグイグイ登って行くと、一筋縄ではいかないチョックスストーン 10m滝が現れる。一見、側壁も立派で、どうやって越えたらよいか悩ましい。とりあえず、左壁を登って落ち口のトラバースするルートを考えるが、かなり悪そうなので空身で取付く。一段上がってバンドに立つと、左壁を登らなくてもバンドを左にトラバースすれば容易に抜けられそうな踏みあとが伸びているのに気づく。再び、ザックを背負って、ロープを引いて登れば問題なく尾根を乗り越え、反対側に約 12m、30mロープフルの懸垂下降で沢床に戻ることができた。ここが一番悪かったという記録があったので思いの外、順調に超えられてホッとす



その後も一見どうするの？ という滝がいくつも現れるが、解答は必ずあり、大きな苦労はなく楽しく超えていく。そして、岩盤の発達した花崗岩の連瀑帯！！美しさに思わず歓声上がる！！ラバーがバチ効きで時々補助的にロープを出したりして忙しいが概ね気持ちよく登れる。やがて溪が左に折れると、今までの躍動感が嘘のように穏やかな溪となり、奥の二俣に到着。テンバから 4 時間半、泊り装備の割にはまずまずのタイムで越えてきたと思う。



■写真上 また厄介な雰囲気になってきた。

■写真中 越えれば平和な世界。

■写真下 そしてまた小滝。

奥の二俣を左俣に入ると、再び溪は険しくなり、スラブ状のホールド・スタンスの乏しい滝が連続する。ラバーだから何とか立ち込めるが、フェルトソールの I 崎さんはか



なり苦労している。4~5mの小滝がほとんどだが、小難しい滝が多く、技術的にはこの辺りがこの溪の核心部だと思う。

スラブ状の滝と滝の間には美しいナメ床が広がり気分の良いところである。滝で苦労して、ナメで癒され・・・を連続すると、溪はV字状のゴルジュとなり、15mクラスの大滝が現れ一瞬身構える。これは登れないので、右岸の岩溝を登り、上部の傾斜が緩くなったところから草付きを右にトラバースして滝の落口へ・・・。見た目よりは容易でホッとす。



■写真上 V字状ゴルジュ帯、天気が良くて良かった！！

■写真中 さあ、どうやって越える？右岸岩溝から草付きをトラバースで越えた。

■写真下 開けた！！ご褒美だね。

この辺り、溪が開け、ナメ床も美しく、稜線も見えだし、ホッとす場所である。「さあ、ここからはルーファイ勝負だ！！」失敗するとひどい藪漕ぎが待っているというので慎重に進もう！！と思っていたが、まだまだ簡単には終わらせてくれない。溪は再びV字状ゴルジュとなり、5m前後のスラブ状の滝が連続する。ただ、さすがに傾斜は落ち、先程までとは違って難易度は低





く、楽しく登れる程度のレベル。最後にご褒美！！といった感じである。「いい沢だね！！」とメンバー皆でこの沢を褒め称えながら登ると、さすがに藪っぽくなり終わりを告げようとしている。今日はチブリ尾根避難小屋で泊まるため（この小屋は水場がない）、ここで一人2Lの水を担ぎ上げることにする。

重くなったザックを背負い、少し藪っぽくなった沢をヨロヨロと登ると、何と美しい草原にでた。高山植物がまだ咲き乱れていて最高のフィナーレである・・・？ と思ったのもつかの間、ここから標高差50mだが、今回一番辛いセクションが始まった。終わったと思ったから余計にそうなのだが、地に足がつかない根曲がり竹の密藪漕ぎが待っていたのである。さらに登るにつれてハイマツなんかも顔を出してホント勘弁してほしい。実質20~30分位だったが、果てしない時間に感じた。

■写真上 上流部もまだまだ滝が続く！！

■写真中 もう登れる滝ばかり、快適だ！！

■写真下 ラバーがバチ効きで気持ちいい！！

「止まない雨はない！！」だれか有名な人の言葉だが、最後、I崎さんに藪漕ぎのトップを代わってもらおうと暫くで「登山道に出たよ！！」という嬉しい声が・・・。



ホントに充実の1本でした！！

さて、楽しみにしていた別山だが、実は、ここから標高差 330m も登らなければならない、ということが現実としてあり、「巻けるものならぜひ、巻きたいものである」などと考え、当初の勇ましさはどこ

へ・・・である。ただ巻き道などあろうはずもなく、水のたっぷり入った重たいザックを背にひたすら我慢の登りに勤しむのでした。ようやく辿り着いた別山山頂は残念ながらガスの中で景色はほとんど見えなかった。ただ、もう登らなくても良いということが嬉しかった。そして、下山途中、これこそが褒美！！とばかりにガスが晴れ、視界が効いて白山連峰の山々が一望のもとに眺めることができた。まさに神の采配である！！

■写真上 詰めていくと草原に出た！！これで終われば最高！！

■写真中 しかし、草原からここまでが短いが大変な藪漕ぎだった。

■写真下 さらに、標高差 330m 登ってようやく別山山頂！！

ただ調子に乗り過ぎたのか、誠に馬鹿としか言いようもないのだが、途中の休憩から歩き始めて約 20 分、そろそろ避難小屋という時に頭がやけに涼しく、ヘルメットを被っていないことに気づく。つい先日購入して今回が 2 回目のヘルメットである。目の前が真っ暗



になった。「取りに行くしかないではないか。」その時、相当死んだ目をしていたのであろう、比較的元気なH多さんが「私取ってきましようか？」と声をかけてくれる。「いやいや、さすがにそれはまずいでしょう。いいよ、ゆっくり行ってくるよ。」と僕、目が死んでいる。H多さん「いや、ホント行ってきますよ」と明るく2度目の声掛け・・・
「エーホント！！」も



う断れなかった。有難くお願いすることにした。H多さん、ホント有難う！！もう、H多さんに足を向けて寝られません。イビキはかくけど、それも悪気はありません。「のど元過ぎれば・・・」と言いますが、それは本意ではありません。だから、忘れないうちに・・・ということで、下山後のビールと餃子で感謝の気持ちを表した。



- 写真上 ご褒美、ガスが切れて白山連峰が見えてきた！！
- 写真中 本峰のガスも最後にとれた！！
- 写真下 チブリ尾根避難小屋。

チブリ尾根避難小屋は貸し切りで荷物も広げ放題！！快適だった。安心感がタープとは違い、雨でも雷でもどんとこい状態！！さすがに焚き火はできないけど、貸し切りの避難小屋って最高！！



9/18
今日は、ただ下山のみ。それでも標高差で1000mあるのでまだ気は抜けない。道は整備されて傾斜も緩く膝に優しいので歩きやすい。ただ、朝から天气が怪しい？予報は悪くなかったはずだが・・・？何時しか本

降りの雨となる。まあ、昨日晴れたから甘んじて受けるが、久しぶりの本降りでびしょ濡れの下山。降りたら雨が止んだ。そして町に向かうと陽が差して予報通りの良い天気になった。いったい何だったの？

帰路も、遠距離ドライブをI崎さんとこなして無事帰宅。充実した！！

岩屋俣谷川は下部の巨岩帯からスラブの連瀑、V字ゴルジュ、癒されるナメ地帯と変化に富み、想像を超える素晴らしい溪でした。面白さ、美しさ、充実感共に僕のレベルでは一級品です。まだ、一部の人にしか知られていない銘溪ですが、白山周辺の溪ではおススメの1本です。東京からはるばる行った甲斐がありました。さすがY先生、良いところ知ってるね！！

ご一緒したI崎さん、H多さん、有難うございました！！特にH多さん、ホントに有難う！！また、良い溪にご一緒しましょう！！

■写真 岩屋俣谷川右俣は快適な溪でした！！

■コースタイム

9/16

市ノ瀬 (9:30) ~ (10:30) 入溪 ~ (11:45) 二俣 ~ (12:00) 1120m付近テンバ

9/17

1120m付近テンバ (5:50) ~ (6:10) 4段核心滝 ~ (8:40) 10mチョックストーン滝 ~

(10:25) 奥の二俣 (10:50) ~ (13:45) 詰めの草原 ~ (14:08) 登山道 (14:30) ~

(15:50) 別山 (16:00) ~ (17:20) チブリ尾根避難小屋

9/18

チブリ尾根避難小屋 (6:00) ~ (8:40) 市ノ瀬